

産業建設常任委員会調査中間報告書

1 調査事件

市街地の整備について

2 調査目的

商工会と産業建設常任委員との懇談会が毎年開催されている。その懇談会の中で、県道余目温海線（旧国道 47 号線）の歩道整備を含めた中心街区の整備について要望がだされている。空き店舗・空き家・空き地の有効利用も含めて誰もが安心して住める市街地の整備について調査することとした。

3 調査経過

平成 24 年 12 月 12 日 （会期中）
平成 24 年 12 月 17 日 （会期中）商工観光課からの聞き取り
平成 25 年 1 月 18 日
平成 25 年 1 月 24 日 聞き取り調査 駅前商店会、茶屋町商店会
平成 25 年 2 月 4 日
平成 25 年 2 月 13 日
平成 25 年 2 月 15 日
平成 25 年 2 月 21 日

4 調査状況

[現況]

(1) 県道余目温海線（旧国道 47 号線）

車道の片側にしかない歩道の幅が部分的には極端に狭く、路面に段差が数多くある。また、電柱が歩道上にあり、通行の妨げとなっている箇所もある。

歩道と余目堰（北楯堰）が重なっているため路面整備しにくい。昭和 38 年に最上川土地改良区と協定を結び、本町が余目堰の維持管理をしている。

(2) 中心商店街（茶屋町商店会・中央通り商店会・駅前商店会）

商店街実態調査（平成 22 年）によると、商店数は平成 14 年の 151 店に比べて約 25%減少し、114 店となっている。（資料 1）業種別構成比率は下図の通りである。（図 1）

町内全域の商業統計調査によると、売り上げは減少している。（資料 2）要因としては、国道 47 号線が整備され、近隣大型店の出店と自動車の普及によって消費者の選択肢が増えたこと、ライフスタイル、消費者ニーズの変化などがあげられる。

駅前商店会の街路灯は平成 5 年に 40 基設置された。平成 19 年に 5 基の灯具が落下したため、平成 20 年に交換した。現在、ポール部分の腐食など老朽化が進んでいる。

茶屋町商店会の街路灯は平成 8 年に 55 基設置され、中央通り商店会の街路灯は

平成8年に40基設置された。

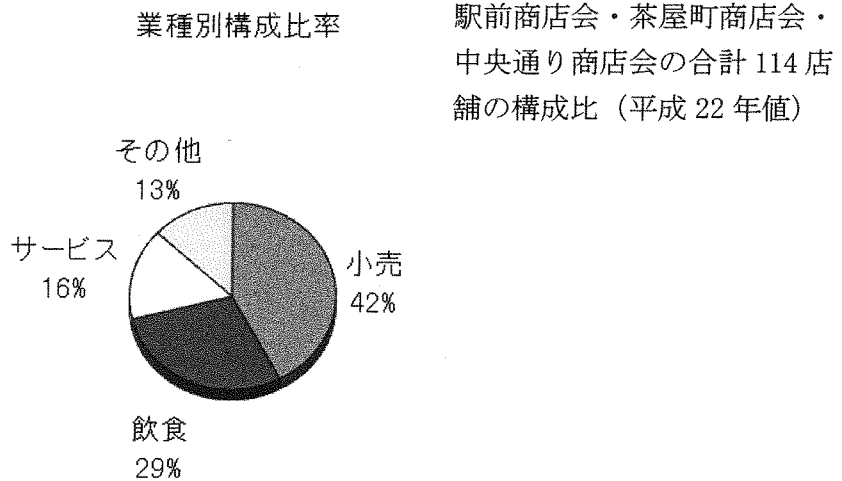
青葉通りのアーケードは、昭和55年に総工費1821万円で設置された。県補助金100万円、町補助金100万円があったものの、残金は青葉通り8店舗7人で負担した。

しかし、補助金申請の都合から、当時組合となっていた茶屋町商店会を通して申請したため、所有者は茶屋町商店会となっている。建設から30年以上経過し、老朽化が進んでいる。

茶屋町商店会・中央通り商店会・駅前商店会には空き店舗25店、商店街に面した確認済みの空き家は4軒ある。

また、既存の店舗のリニューアルも思うように進まず、閉店時間も早いため、夜間は暗く閑散としてさみしい印象の商店街となってきている。

図1



[課題]

- (1) 街路の整備
 - ア 歩道の整備
 - イ バリアフリー化
 - ウ 街路灯の整備
 - エ アーケードの老朽化
- (2) 空き店舗・空き家・空き地の有効利用

2. 商店街の概要（平成22年商店街実態調査から）

商店会名	代表者名 (代表者事業所名)	設立年月等経過	店舗数										街路灯				その他
			地区 内 総数	業態・業種別内訳						空 き 店 舗 数	会 員 店 舗 数	設 置 有 無	設 置 数	最 終 設 置 年	設 置 費 用		
				小 売	飲 食	サ ー ビ ス	コ ン ビ ニ	大 型 店 千 m 超	そ の 他								
駅前商店会	佐藤 敏雄 (富士郎商店)	昭和37年8月法人化（協同組合駅前商店会） H19解散・現在は任意組織	24	14	3	4	-	-	3	5	28	5	有	40	平成5年	約1,200万円	
茶屋町商店会	川村 一男 (川村食堂)	昭和37年5月法人化（協同組合茶屋町商店会）しそ の後解散（時期不明） H7・中央通り商店会と2 商店会で協同組合あおほ 商店会設立。 H19・解散し、現在は任意 組織	51	24	14	4	-	-	9	12	51	12	有	95 (内55)	平成8年	約3,800万円 (内2,200万円)	S55・アーケード設置 約1,820万円 S57・アーケード歩道 等整備 約680万円
中央通り商店会	北川 薫 (トミヤ書店)	昭和30年設立以来任意組 織 H7・中央通り商店会と2 商店会で協同組合あおほ 商店会設立。 H19・解散し、現在は任意 組織	39	10	16	10	-	-	3	8	21	8	有	95 (内40)	平成8年	約3,800万円 (内1,600万円)	S53・中央通り商店会 アーケード設置

6. 商業統計調査結果から（山形県の商業：小売業：売り場面積規模別）

調査年	1～9㎡			10～19㎡			20～29㎡			30～49㎡		
	商店数	従業員数	年間商品販売額	商店数	従業員数	年間商品販売額	商店数	従業員数	年間商品販売額	商店数	従業員数	年間商品販売額
平成9年	3	-	-	29	67	26,744	37	74	64,277	62	133	124,489
平成11年	7	15	7,069	27	55	23,568	38	59	44,281	53	126	93,123
平成14年	4	-	-	20	63	26,019	25	53	56,266	56	127	84,584
平成19年	7	12	2,240	28	42	17,992	29	62	40,415	51	127	93,361

調査年	50～99㎡			100～199㎡			合計			参 200～299㎡		
	商店数	従業員数	年間商品販売額	商店数	従業員数	年間商品販売額	商店数	従業員数	年間商品販売額	商店数	従業員数	年間商品販売額
平成9年	52	159	294,880	26	146	248,503	209	579	758,893	17	259	546,244
平成11年	56	173	260,751	19	110	177,823	200	538	606,615	17	265	678,275
平成14年	36	116	162,063	24	113	146,162	165	472	475,094	18	244	446,640
平成19年	52	154	124,027	24	140	173,233	191	537	451,268	20	341	483,140

※①統計単位は従業員数は（人）、年間商品販売額は（万円）

※②参 200～299㎡は、特に大型店では年間販売額の回答が無いものもある為、あくまでも参考値

※③平成19年調査は、合併後となる為、旧立川町分も含まれている。